

背景・課題

阿南地域は、県内屈指の施設園芸地域であり、いちご、かんきつ、きゅうりの栽培が盛んである。どの品目も近年薬剤抵抗性を持つ難防除病害虫の発生による収量及び品質への被害が大きく、産地として効果的な防除技術が喫緊の課題となっている。

これまでも天敵を活用した防除技術の導入を試みてきたが、IPM技術導入には専門的な知識や経験値が必要なことや、費用面の問題などから、部分的な普及に留まっている。このため、個々の組織がそれぞれの品目で取り組むのではなく、協議会組織を核とし、品目の枠を越え、一体となってグリーンな栽培体系への転換を推進した。

成果目標と達成状況

○化学合成農薬の使用量低減：

- ・いちご：アザミウマ天敵、アブラムシ天敵及びハスモンヨトウ用フェロモン剤、アザミウマ対策の防草シート等を活用した総合防除技術
- ・かんきつ：ハダニ天敵、ハスモンヨトウ用フェロモン剤、ハマキムシ用フェロモン剤の活用による総合防除技術

- ・きゅうり：アザミウマ天敵及びハスモンヨトウ用フェロモン剤を活用した総合防除技術

○省力化：IPMの実践による薬剤散布回数の削減

取組の成果

- いちごにおいては、天敵と防草シートの併用により、無処理と比較してアザミウマの発生を半分以上に抑えられた（図1）。
- かんきつ（みかん）においては、天敵2回放飼により、長期間ハダニを低密度に抑えることができ、果実への被害も少なかった。
- きゅうりにおいては、天敵放飼により、アザミウマの発生を抑えることができ、被害も少なかった。導入効果の高かった園地では、農薬の散布回数が19回から11回に削減できた（図2）。

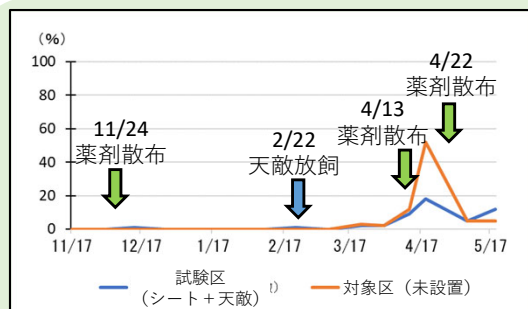


図1 アザミウマ寄生花率の推移 (いちご)

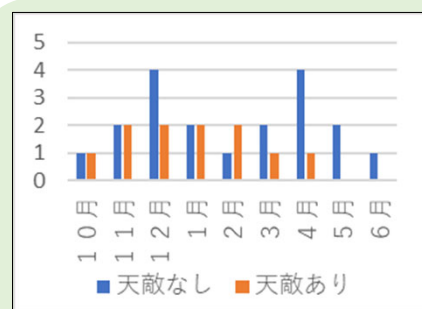


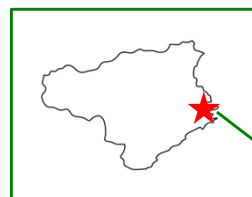
図2 農薬散布回数の比較 (きゅうり)

普及に向けた取組

令和4年度に作成した「グリーンな栽培体系導入マニュアル」を基に、講習会、現地巡回等において、地域への普及・定着を図っている。天敵、フェロモンを導入するタイミングや導入コストに課題が残っていることから、先進地等との情報交換などを進め、より効率的なIPM導入法も検討し、IPM技術の普及、定着に取り組む予定。

問い合わせ先

阿南市みどりの食料システム推進協議会
(阿南農業支援センター TEL: 0884-24-4182)



阿南市

構成員

徳島県、JAアグリあなん、JA東とくしま、阿南市

品目

いちご、かんきつ、きゅうり

栽培マニュアル・産地戦略

グリーンな栽培体系
への転換サポート
| 農業支援センター



<https://www.pref.tokushima.lg.jp/shien/anant/7215777/>



天敵放飼の様子
(きゅうり)